

原告団

遺族・CO裁
判、災害責任
追及、特集号
第百二十八号

結婚恥かし

あの三川鉦炭じん大爆発で頼む
夫を奪われ、思いも寄らずに
未亡人になり、悲しい暮らしを
おくることを余儀なくされた人
に、梅花エイ子さんがいる。姓の「梅
花」は、「はいか」と読む。
エイ子さんは島原地方の農家の
出。長崎県南高来郡津田の下田
農家さん(五年ほど前八十八歳で
世を去る)を父に、同姓のクンさん
(今も元気で存命。八十六歳)を
母に、昭和二年一月一日、九人き
ょうだいのなかの六番目の子とし
て生まれた。

農家で、しかもこの子だくさん
では暮らしが決して楽ではあり得
なかったのだらう。彼女は、日本
の対米開戦直前の十六年の十月、
満十四歳という少女の身ながら
叔母を頼って渡満。大連へ。

でも戦争が日本の敗戦をもって
終ると、二十二年一月二十六日に
は再び母国へ。荒廃した家に帰っ
て見ると、三人の兄は戦死してい
た。

彼女は引き揚げるその年の五
月十日にはもう、縁あって梅花寅

原告団レポート

遺族——
梅花エイ子さん



亡夫一寅次郎さんの遺品を、今も大切に守っているエイ子さん。遺作のホッパパイプが見ごとだし、水彩画の細かなタッチも心をうつた。(写真はエイ子さん)

忘れぬ嫁入りの日

娘の結婚のときも泣き、息子の結婚のときも泣いた

亡夫は今も心のなかに

結ばれた日

それにして、エイ子さんのお
嫁入りは大変だった。

その日の朝六時頃、花嫁はちよ
っと着のまき、仲人や両親、それ
に身うちの人びとにつれられ、歩
いて田舎の家を出た。ところが、

職場仲間にも長いこと事実をひた隠
しにしていたという。

かんじんの島原港に着くのがひと
足遅れてしまい、とんでもないこ
とに、乗船予定だった午前八時出
港の船に間に合わずじまい。正午

頃出港の船になってしまった。
かうして着いた三池港は、そ
の頃まだ接岸できる波止場がなく
迎いの小舟で乗りつぎ、やっと岸
壁に降り立つことができたのだっ
た。

川鉦に近い新港社宅に移ったが、
それから三年少したった二十六年
の三月、今住まっている大牟田市
諏訪町二丁目七十一番地の家へ移
り住んだ。父親の里峰さんが買い
取った家で、共に住むことになっ
たのだ。

以後三十八年十一月九日のあの
三川鉦炭じん大爆発で、夫の寅次
郎さんが犠牲となる後、彼女
はこの義父といっしょに暮らすこ
とになるが、その間にも三人の子

昼も夜も...

夫——寅次郎さんが三川鉦大爆
発に被災、死亡したのをさかい
に、ひとしお苦しみ多いエイ子
さんの暮らしが始まった。自宅の一
部を店先に改造して、長く続けて
きた文具類の小さなあきないだけ
では、亡夫から託された三人の子
どもたちを養っていかなくてはな
ったのである。

カメラも得意とした。日曜大工
も心得、炊事場の板張りなども彼
がやっていたという。

仲間たちと、よく山登りにもい
った。そういえば、山容を描いた
絵が多い。

ある夏など、妻のエイ子さんと
三人の子どもをつれ、景色のよい
ところとして知られている日向神
の谷川のほとりでキャンプを張っ
たこともあった。そして、清流のな
かに足を入れては、ちよちよと
と泳いでいる小魚たちとたわむれ
たり……。

その上悪いことに、花嫁の一行
が島原をたつた大牟田へ向う船上
にあるうちに降り出した雨が、い
よいよ本降りになってきた。すで
に聞いていた宮ノ原農家の煙突を
頼りに、「日井社宅はあの煙突の
近くにあるから」とお互いに声を
かけ合いながら、ほかの人びとは
もちろんのこと、花嫁のエイ子さ
んさえ着物の裾を高々とまくりあ
げながら、どしゃぶりの雨を歩い
たという。ひと足遅いので、予定
の船に乗りそこねたばかりに、社
宅に着いたとき一行はびしょ濡れ
だった。

もともとは學式のときにはちゃん
と、エイ子さんは髪も高島田に結
ぶつもりで、身うちの人びとに貸し
てもらった留袖の晴れ着で身を装
い、見送るばかり美しい花嫁
になり、花婿の寅次郎さんと契り
の盃を汲み交わすことができた。
こうして結ばれた二人だったのだ
である。

さいわいその後成長を遂げ、三
人それぞれによい配偶者を得て結
婚。クミ子さんと二人、和子さん
に一人と子どもまである。

前記したように義父の里峰さん
もすでに世になく、今現住所で暮
らしているのはエイ子さんただひ
とりの。亡夫の位牌を守りながらの
さびしい暮らし。彼女は毎日きま
つて、亡夫の位牌に差し朝出かけ
るときには「おとうさん、いつて
きます」、そして夕方工場から帰
ってくると「ただ今帰りました」と
と声をかけるのが日課のひとつ。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

まさひとり息子の豊一さんが高
校で学んでいたときのこと、学校
参観日があった。出かけてい
って見ると、どこか家庭からも男
親ばかり。「うちの子どもも、お
父さんがやってきていたらどんな
にか心強かったらうに……」と思
うと、エイ子さんは人びとの間に
はさまっているが、細かいそ
の描写にその人柄がよくしのばれ
る。

カメラも得意とした。日曜大工
も心得、炊事場の板張りなども彼
がやっていたという。

寅次郎さんが勤務のつごうから
新婚の二人はその年の十一月、三

亡夫は今の心の中に

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

まさひとり息子の豊一さんが高
校で学んでいたときのこと、学校
参観日があった。出かけてい
って見ると、どこか家庭からも男
親ばかり。「うちの子どもも、お
父さんがやってきていたらどんな
にか心強かったらうに……」と思
うと、エイ子さんは人びとの間に
はさまっているが、細かいそ
の描写にその人柄がよくしのばれ
る。

カメラも得意とした。日曜大工
も心得、炊事場の板張りなども彼
がやっていたという。

カメラも得意とした。日曜大工
も心得、炊事場の板張りなども彼
がやっていたという。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。

あの大悲劇が起きた日から、早
くも十五年という歳月がたった。
三十八歳とまだ若かったエイ子さ
んも、今ではもう五十一歳といえ
ば初老の人だ。何べん泣いたこと
か。